

暖色の間接照明の灯りが落ちる室内。

天井も壁も淡いベージュ色で統一されていて、部屋の隅には観葉植物にアロマディフューザー、それから真ん中には大きめのベッド。

体を程よい弾力で受け止めてくれるマットレスにはふわふわのタオルシーツがかけられていた。

私はいま、そのベッドに仰向けで寝ている。  
何人もの男性に囲まれて。

ここは開業前の女性向けマッサージ店だ。  
他店で働いていた店長が独立して新しくお店を出したらしい。

今日はここでそのお店の新人施術師さんたちの研修が行われる。

私はそのモデルとしてここに来た。……ただスポットワークの募集に応募しただけなのだけれど。

「ではお客様、始めますね」

そう言って私に触れてきたのは店長だ。

年齢は三十代だろうか。低い、でも安心感のある声。

私の名前は伝えてあったけれど「お客様」と呼ばれたのはこれが研修だからだろう。

「まずはおお客様の体の緊張を緩めていきます」

私の頭側から彼の両手が私の肩に触れた。

始まる前に「これに着替えてください」と言われ渡されたラップガウンと呼ばれるものは、その名の通り体に巻くタイプの施術着だった。

肩は丸出し。大版のバスタオルのような布を脇の下の位置でボタンを止めるワンピース型のものだ。

大きな手。

それが首から肩へゆっくりと撫でるように滑る。

肩を撫で下りては首に戻って、また気持ちいい圧をかけながら肩を撫でる。

ベッドの両側にいる六人の新人たちは見逃すことのないようにその動きを食い入るように見つめていた。

「体がだんだんと温かくなっています」

店長のその言葉は私に言っているのか、新人たちに言っているのか分からなかったけれど。

でもさすがプロ。店長の手はとても気持ちよくて。

「ほぐれていく感じがします。気持ちいいです」

私は口にした。

「ありがとうございます、そう言ってもらえて嬉しいです。それでは新人たちも実際にやってみましょう」

そこからは、店長が手本を見せては、新人さんたちが代わる代わる私の体でそれを実践していった。

同じ動きをなぞっているはずなのに、店長の手と新人さんたちの手では体の感じ方が全然違う。それがなんだか面白い。

いい香りのする部屋。

体には薄い布を一枚巻いただけ。

そんな格好で男性たちに囲まれている状況に、最初こそ緊張していたけれど、施術そのものの心地よさに私も少しずつリラックスし始めていた。

でも、それも長くは続かなかった。

「それでは、次は……」

(あれ?)

店長の手が私の脇とデコルテ、施術着が巻かれているあたりにぴったりとついて。

「このあたりを」

すり……、

胸の輪郭を辿るように撫でた。

そのときの絶妙な指の圧。ぞわっと腰の辺りからくすぐったいような、落ち着かない感覚が昇ってくる。

(こんな胸触るマッサージある……?)

すり……、すり……、すり……。

「……、」

胸の丸みの横側を、施術着の上から何度も何度も温かい手が往復する。

(なんか、そこ、されると……)

すり……、すり……、すり……。

はっきりとした快感じゃない。

じわじわと蝕んでいくような感覚がそこから主張してくる。

「ここも温かくなってきましたね。次はときどきこうして、」

何度も繰り返した店長はそう言うところから手を離し、

さりっ♡♡♡

「あっ」

「ここも刺激してあげましょう」

胸の頂点だけを掠めるように、手のひらで円を描いた。

摩擦を受けた乳首が施術着の下でむくむくと勃起あがっていくのが分かる。一気にそこに血が流れ込んで布を

押し上げている。

その瞬間、私の体に起こった変化を自覚してしまった。

(やば、気持ちよくなっちゃう……)

思わず仰向けていた顔を背けた。

視界がベッドの横にいる新人のブラウンのユニフォームで埋まった。

「これを続けていきます」

そう言うと店長はまた私の胸の輪郭に手を沿わせた。

脇から下へ手のひらが何度か往復して、

さりっ♡

「う……、」

施術着を押し上げる乳首を掠める。

突起を軽く押し倒される感触に体がじわっと熱くなる。

すり……、すり……、すり……♡

……さりっ♡♡

「っ」

すり……、すりー……、すり♡

…………さりっ♡♡

「……ふ、うゝ」

すりー…、すりー…、すりー…♡

…、さりっ♡♡

「んッ♡」

すり……、すり……、すり……っ♡

さり……っ♡♡

「あッ♡♡」

体が反応するのをやめられない♡

膝が浮き、腰が浮き、肩が浮き、我慢しようとすれば  
するほど体をくねらせてしまう♡

「お客様の反応が鈍ければ焦らすように力を弱めて続け  
ましょう。こちらのお客様には充分のようですが」

(これわざとなんだ、もしかしてこのマッサージ店って  
そういう……)

「なので、今度はここを重点的に」

くるっ♡♡

さっきまで掠るだけだった手のひらがそこで止まって、  
乳首の先端に当てられたまま円を描いた♡

くる♡ くる♡

「あッ、あ♡」

布越し乳首、手のひらに引き摺られて縦横無尽に倒される♡♡

くる♡ くる…♡ くる～♡

「んッ、ああ♡」

先端には布の感触、それから付け根は軽く引っ張られ、くる～♡ くる、くる、くる♡

「……っ♡♡ あ…っ！♡♡」

ビクつく体が恥ずかしくて私はベッドの端を思いっきり握った♡♡

でも耐えられるわけない♡

店長の手のひらは悶える私に構いもせずにその動きをやめなかった♡♡

くるくる♡ くる、くる♡

「ッふ♡ うう……っ♡♡」

乳首はどんどん敏感になっていってしまう♡♡

くる♡ くる♡ くる♡ くる♡ くる♡

「うあ、あー……っ♡♡」

さっきよりもあからさまに勃起したそこは、過剰に刺激を受け取って♡

くる～……♡ くる～……♡ くる～……♡

「あ、あ、あ♡ っ♡♡」

私は誤魔化せないほど体をくねらせていた♡♡



（どうしよう気持ちよくなっちゃってる…！これってこのまま流されていいやつなの？それとも……、）

「それでは、順番にやってみてください」

店長は私から手のひらを離すとベッドから少し離れた  
♡

代わりに群がってくる新人たち♡

両乳首にそれぞれ別の手のひらが降りてくる♡♡

「もう乳首がすっかり手にひっかかりますね」

「できるだけ優しく、優しく……」

すり♡ すり、すり♡ すり……♡♡

「んああ♡♡」

さっきまで左右対称に動いていた店長の手とは違う、

すりすり♡ すりい♡すりい♡ すり～……♡♡

「あ♡ あ♡ あ、っ♡♡」

バラバラに動く手がそれぞれの乳首を違う動き、違う  
圧で刺激してくる♡♡

すり♡ すり♡ すり♡ すり…っ♡♡ すりっ♡♡

「……んく♡♡ んっ♡ んあッ♡」

いずれにしても布越しの鈍い刺激はたまらない♡♡

すり♡ すり～…♡ すりすりすり♡♡ すりすりすり  
……♡♡

「ああ、あ…っ♡♡ あ、ん♡♡ あ、は……♡♡」

私はいつの間にか頭をベッドに押し付け、欲しがるように背中を浮かせていた♡♡

「充分ですね。それでは次に移りましょう」

新人たちが離れると、自分のペースの速い呼吸と心臓の音が聞こえる♡

今度は店長が私に覆い被さってきた、と思えば、

れ……♡♡

「ひ、♡♡♡」

舌が♡

私の乳首をゆっくりと下から上へと舐め上げた♡♡

布越しでも分かる、手のひらよりも生温かい、湿った感触♡♡

柔らかい舌の腹が布を引きずって尖った乳首を撫でたのだ♡♡

思わず顔を上げて胸元を見たけれど♡

店長は私の顔を見もせずに私の肩を手で押してベッド

へ押さえつけた♡

「な、……ッ」

「お客様は乳首が敏感なんですね。新人、よく見て、ここまで尖っていればもっともったいぶって舐めるといいですよ」

れ、ろお……っ♡♡

「あッ♡♡」

舌先から舌の腹へ、ゆっくりと這わせて♡♡

言葉通りもったいぶって舐め上げる♡♡

ぞわぞわ♡♡ 脇腹から乳首の先端まで痺れるような感覚が走る♡♡

れ、ろお……♡♡ れろお……♡♡♡

「んっ♡♡ あ♡♡あっ♡♡」

だんだんと舐められているほうの布が湿っていくのが分かる♡

れろお♡ れろお♡ れろ……お♡♡

「…ッ♡♡ ふ♡ う♡」

布の抵抗が強くなり、乳首にぴったりと張り付いて♡  
れ♡ れ～……♡ ……ろお♡♡

「あアッ♡♡」

勃起した幹を擦った♡♡

「すごく勃ってますね」

「ここまで勃起していればやりやすそう」

周りで自分の体の変化をまじまじと観察される♡

そのうち、新人の一人は私のもう片方の乳首に顔を寄せた♡♡

「ええと、もったいぶって……ですね」

ぴと♡♡

伸ばした舌を乳首に沿わされ♡

れ……♡♡♡

舌先が布の付け根の部分に当てられると♡

……ろ、♡♡

ゆっくりと下から上へ舌の腹を当てられ、

……お♡♡♡

舌先が布を引きずって先端へと移動する♡♡

「ふッ う♡♡♡」

今はすっかり湿ってしまった、店長に舐められている  
ほうと同じことを反対側にもされ始めた♡♡

れる♡♡ れろ、お♡♡ れろお…♡♡ れろ、れる♡♡  
「は、あ♡ あっ♡♡ あ、う♡♡♡」  
店長の舌は動きがあからさまになっていく♡♡  
れる……♡ れら、れら♡♡ れろお♡♡ れろお♡♡  
「あ♡ あ♡ っ♡♡ だ、だめ♡ りょうほ、は……♡  
♡」

反対もそれを追いかけるように、湿っていく布を乳首  
にぴったりと張り付け、何度も舌が小さな突起を舐め上  
げた♡♡

れら♡♡ れら♡♡ れら、れら♡ れろお♡♡ れ、ろ  
お♡♡  
「ッあ♡♡ あっ♡♡ あ♡♡」

胸の先端だけしか触られない、尖ったそこだけをしつ  
こく柔らかい舌で愛撫され続ける♡♡

「ふ、……♡♡ ふ、う……♡♡♡ ふ——……♡  
♡♡」

(……どうしょ、私すっかり気持ちよくなっちゃって)

足をもじもじ、腰をくねくね、自分で意識しないまま  
勝手に動いてしまう♡

「施術着の上からでも乳首が更に硬くなっているのが分かりますね」

「これだけ育っていれば充分でしょう。次に行きましょうか」

(え、次？ 次って)

店長の声に顔を動かすと、店長は、  
ふわり、唇で優しく布越しの乳首を包んだかと思えば、  
きゅ…………♡♡♡ その根元をゆるく締めた♡♡

「あ…………ツツ♡♡♡」

ビクンツ♡♡

体が跳ねてしまった♡

続けて新人はまた別の新人に交代し、店長の動きをなぞるように、ふわり、そこを唇で包んで、きゅっ♡と締めた♡♡

「あゝ♡♡♡」

店長のような丁寧さはない♡

でもそれが逆に、強い刺激となって乳首に響く♡♡♡

「そうです、次はこうして唇で乳首への快感を育てましょう」

「わかりました」

ちゅ♡♡

ちゅ♡♡

ちゅ、う♡♡

締められた唇が、乳首の根元を優しく吸引して、そのまま先端へ移動し、音を立てて離れる♡♡

「は、あー……♡♡♡」

ぞわぞわ♡♡♡ 上半身が震えて、肩が上がり喉が反る♡♡

ちゅ♡♡

ちゅ♡♡

ちゅっ♡♡

続いて新人も♡

力の加減の甘い唇がしっかりと勃起の根元を挟んで、そのまま上へ引っ張り上げていく♡♡

「あ♡♡ は、あ♡♡♡ ……ッ♡♡」

(これ、まずい……)

何人もの男の人に囲まれ見下ろされて、ベッドの上で両乳首を吸われ♡♡

私はなんとか快感を逃がそうと体をもじもじと動かす  
♡♡

だけどベッドの端を握っても、足を擦り合わせても腰  
を浮かせくねらせても、体は熱くなっていくばかりだ♡  
♡

「快感を逃がしたい」なんて思えなくなるほど♡♡♡

ちゅ♡♡ ちゅ、♡♡ ちゅっ♡♡

ちゅぽ♡♡ れろれろれろ……♡♡ ちゅぽ♡♡ ちゅっ、  
ちゅっ♡♡

「あっ♡♡ ああッ♡♡ はあっ♡♡ ん、あ♡♡ あっ♡  
♡」

まだ優しいこの刺激を、もっと強くしてほしいと思っ  
てしまう♡♡♡

布を捲って直接濡れた口内に含んでぢゅぶぢゅぶに吸  
ってほしいと思ってしまう……♡♡♡

「はあッ♡♡ あっ♡♡ あ♡♡♡ あああ……っ♡♡♡」

「……新人、交代して。次は下も見ていきましょう」

その声に、店長と入れ替わるように別の新人が胸元へ  
移動してきた♡♡

ぎこちない唇に乳首が包まれ、細かに吸われ始める♡





店長は私の腰の辺りに移動すると施術着を捲り上げて私の足を広げた♡

恥ずかしいはずなのに私の足は促されるままに抵抗なく開く♡♡

「乳首に時間をかけてあげると、こうして下着の上からでも分かるほどに濡れます。……にしてもお客様は濡れやすいんですね。もうぐっしょりだ」

「ン っ♡♡♡」

指が下着をなぞって♡

そこがはっきりと濡れていることを自覚させられた♡



そのまま店長の手は下着を丁寧に引き抜いていく♡♡

心臓の音が早くなる♡

触られてしまうんだ♡ そこも♡♡♡

ゆるく開いたままだった私の足は店長に押さえつけられた♡

「ああ、もうとろとろですね。でもまずはこっちです。包皮から少しだけ覗いていますが、始めは包皮の上からがいいでしょう」

わざわざその状態を言葉にされると居た堪れなくなってしまう♡♡

店長は私の土手に手を沿えながらそこに顔を近づけ、それから乳首を愛撫している以外の新人は店長の後ろからそこを伺った♡♡♡♡

さり……♡♡

店長は言った通りに私のクリトリスを包皮の上から撫でた♡♡♡

さり…、さり…♡♡

「あ…ッ♡♡」

いい子いい子、とでも言うように包皮のカーブを上から下へ撫で続ける♡♡

さり、さり、さり♡♡

「んああっ♡♡ あッ♡♡」

摩擦で熱い♡♡ 撫でられているのはクリトリスなのにその少し下、陰唇に血が流れ込んで開いていく♡♡♡♡  
♡

さり、さり、さり♡♡ さり、さり、さり♡♡

「店長、おまんこが……」

「反応してますね。しっかり観察しててください。このまま包皮を捲ります」

「え、……ア” っっ♡♡♡♡」

店長の人差し指で皮を下げられるのが分かって、すぐに生のクリトリスを撫でられた♡♡♡♡

すり、すり、すり♡♡ すり、すり、すり♡♡

「あ” …っ！♡♡♡ あ、あ” ツ、ツ、ア” っ、あ♡♡♡」

優しい愛撫なのに、それに比例しない刺激♡♡  
体が一気に熱くなって、膝がパタパタと跳ねてベッドに当たる♡♡♡

私の反応に、新人たちも身を乗り出した♡♡ 店長もクリトリスの皮をしっかりと押さえ込む♡♡♡

「お客様はクリトリスが弱いみたいですね」  
「おまんこ、さっきよりも反応してます」  
「ちんぽ誘ってるみたい……、おまんこぱくぱくしててエツ口……」

……ちゅぽ♡♡ ちゅぽ♡♡ れるれる♡♡ れるお♡♡  
れるお♡♡  
れられられら……♡♡ ちゅっ♡♡ ちゅっ♡♡ ちゅっ

♡♡ ちゅっぽ♡♡

乳首を愛撫し続けている二人も、息が荒くなって動きに遠慮がなくなっていく♡♡

すり、すり、すり♡♡ すり、すり、すり♡♡ すり、すり、すり♡♡

皮を捲られた小さなクリトリスは一定のペースで撫でられ続け♡♡♡♡

「あッ、あ♡♡ ……ツツ♡♡ あああ♡♡♡ ツ♡♡ ん♡♡♡あ♡♡」

(やばいっ♡♡ やばい~~~~♡♡♡♡ 気持ちいい……！♡♡)

みっともなく開いた足の中心に熱が溜まる♡♡

丸裸にされた神経の塊が主張するようにドク♡ドク♡と脈打っている♡♡

「だ、だめです、イっちゃう……！♡♡ んあッ、やめ、…ああッ♡♡」

「お客様が絶頂するようです。絶頂するおまんこ、ちゃんと見ているように」

れられられられらっ♡♡ ちゅぽっちゅぽっちゅぽっ

ちゅぽっ♡♡

れるっれるっれるっれるっ♡♡ ぢゅっ♡♡ ぢゅっ♡  
♡ ぢゅっ♡♡ ぢゅっ♡♡  
すりすりすりすりすりすりすりすり……っ♡♡♡♡

ますます愛撫が激しくなった♡♡

私を追い詰めるように♡♡♡♡

「あッ♡♡ あっ♡♡あっ♡♡ あ……ッ” ♡♡ だめ♡♡  
イク、こんな……♡♡♡ あ…ッッ♡♡♡♡」

ちゅぽちゅぽちゅぽちゅぽちゅぽちゅぽちゅぽッッ！  
♡♡♡

ぢゅ〜〜〜〜〜っ！♡♡♡ ぢゅ〜〜〜〜〜  
〜っ！♡♡♡

すりすりすりすりすりすりすりすりすりッッ♡♡♡  
♡♡

「あ、やだっ、イク、……ッッ！♡♡♡♡ イ、…  
……ああ” あ” ツツツ！！♡♡♡♡♡」

イってしまった……♡♡♡♡

ベッドの端を握り込んだ手を真っ白にして腰を跳ねさせ、こんなに男の人たちに囲まれながらイってしまったのだ♡♡

周りからは熱のこもったため息が聞こえた♡ そうだ、  
イってる最中のおまんこを見られたんだった……♡♡♡

「では次はクリイキするクリトリスも見ていてくだ  
さい」

「あ」……………！！♡♡♡♡♡」

体を落ち着かせようとしている私をよそに、店長は私のクリトリスに指を二本当てた♡♡

軽くクリトリスを潰したその指は♡♡

ぶちゅっ♡♡

ぷちゅちゅちゅちゅちゅちゅちゅちゅちゅちゅちゅちゅちゅっ  
っ！♡♡♡♡♡

「お」……………つつつつ！！♡♡♡♡♡

一気に細かく上下に動かされた♡♡♡♡

ぷちゅちゅちゅちゅちゅちゅちゅちゅちゅちゅちゅちゅちゅっ  
っ！♡♡♡♡♡

「お、お” ……っ！♡♡ ……、……ッ、？♡♡ な、」

絶頂の余韻の消えない体を立て続けに浴びせられる刺激♡♡

ぷちゅちゅちゅちゅちゅちゅちゅちゅちゅちゅちゅちゅちゅっ  
っ！♡♡♡♡♡

「な、な、……、やめ、……ッ” ヅ” ！♡♡♡♡♡ ん  
お” っっ！♡♡♡」

受け止めきれなくて腰がベッドの上で激しく跳ねる♡  
♡

でもそれは見かねた新人の何人かで押さえつけられて  
しまった♡♡

ぷちゅちゅちゅちゅちゅちゅちゅちゅちゅちゅちゅちゅちゅっ  
っ！♡♡♡♡♡

「あ” ヅツ、お♡♡ お” お” っっ！♡♡♡♡ 待って、  
……！♡♡ そんな……あ” ！！♡♡♡♡♡」

上半身だけが反抗するみたいにベッドの上でのたうっ  
ている♡♡♡

ぷちゅちゅちゅちゅちゅちゅちゅちゅちゅちゅちゅちゅちゅっ  
っ！♡♡♡♡♡

「お” ～～～～ッッッ♡♡♡♡ やばい……♡♡♡  
♡ お”、ほ……ッ、うそ、連続、で……♡♡ おッ♡  
♡♡ お” ヅ！♡♡♡ おおおっ！！♡♡♡♡♡」

「すごい……、おまんこの入り口の収縮が激しくなりま

した」

「本気で感じてるおまんこってこう、なんですね」

「お客様のクリトリスが更に硬くなりました、もうイキますよ」

ぷちゅちゅちゅちゅちゅちゅちゅちゅちゅちゅちゅちゅちゅッ！！♡♡♡♡♡

ぷちゅちゅちゅちゅちゅちゅちゅちゅちゅちゅちゅちゅちゅッ！！♡♡♡♡♡

イク瞬間♡♡

思いっきりクリトリスを擦り立ててから、店長の指はクリトリスを弾いて離れた♡♡♡♡

「ン” お” ………ツツツッ！！！！♡♡♡♡♡♡♡♡♡♡♡」

その圧から解放されたクリトリスが絶頂にビクンビクンッと大きく痙攣する♡♡♡♡♡

「なるほど、特に付け根の辺りが収縮するんですね」

「これがクリイキしてるクリトリスかあ、ここは演技な



んてできませんし、これが正直な反応なんですね」

「…………、……ッ♡♡ ふう” ……………♡♡♡」

絶頂の余韻に腰がガクつく♡♡♡♡

そんなのも気にもしない様子で店長と新人たちは私の様子を観察し続けていた♡♡

新人たちは真正面から私のおまんこの様子を観察し、店長はまた私のクリ皮をずり下げる♡♡♡♡

「クリトリスが最も敏感になっている状態です。このときは指よりも柔らかい口内や舌で責めるといいでしょう」

「なるほど、ここでクンニですね」

（嘘、今は——、）

いったばかりで動けない♡

店長が上半身をベッドに乗せたんだろう、足元のマットレスが少し沈んだ感覚がして、

べろお♡♡♡♡♡♡

剥かれたままのクリトリスを柔らかい湿ったものが撫で上げた♡♡♡♡

「…………っっ！！！！♡♡♡♡♡」

「いったばかりだとこんなに敏感なのか」

「腰も足もガクガクしてる」

「もしかしていま乳首も敏感になってるんじゃない？」

「いいところに気付きましたね、誰かまたお客様の乳首をマッサージしてみましょう。さっきよりも少しだけ強くして大丈夫です」

(うそ、うそ……！！)

ベッドの両側に新人が来る♡♡

二人はまだ私の施術着を剥がさなかった♡

湿ったままの布の上から、

ぢゅぼっ♡♡ ぢゅろおっ♡♡

布を押し上げていた乳首にしゃぶりついた♡♡♡♡

べろっ♡♡ べろべろっ♡♡ ちゅっ、ちゅ、ぽお♡♡

店長はしっかりとクリ皮を押さえたまま舌と唇を使って小さなクリトリスに刺激を与え♡

ぢゅっ♡♡ ぢゅぽっ♡♡ ぢゅぼ、ぢゅぼぼ♡♡♡ ちゅッぽ♡♡ ちゅッぽお♡♡♡

新人二人はさっきよりも圧を込めて乳首をしゃぶり、

吸い上げ、解放した♡♡♡

それをひたすらに小刻みに繰り返される♡♡♡♡

「お” ッ♡♡♡ ほ、っ♡♡ おお、……………ッ♡♡ なん  
♡なんで、え♡♡ いっしょ、するのため♡♡♡ イった  
ばっか、なのに、……！♡♡♡♡♡」

べろべろべろべろ♡♡♡ べるる♡♡♡べるる♡♡♡  
ちゅぽちゅぽちゅぽちゅぽッ♡♡♡

ぢゅッ♡♡ ぢゅッ♡♡ ぢゅッ♡♡ ぢゅッ♡♡ ぢゅ  
ぽッ♡♡ ぢゅぽッ♡♡ ぢゅ〜〜〜〜〜ッ♡♡♡  
♡

「もう自分から足開いちゃってる。ダメとか言いながら  
しっかり感じてるってことか」

「横から見てるとビクつく腰がかなりエロいです、興奮  
してきた…」

「新人、観察もいいですがお客様に具合を聞いてくださ  
い」

「あ…、そうか。お客様、ちゃんと効いてますか？」

べるッ♡♡ べるッ♡♡ べろろろろっ♡♡♡ べろろろ  
ろっ♡♡♡ ぢゅッッぽ♡♡ ぢゅッッぽ♡♡ ぢゅッッぽ  
♡♡

舌がクリトリスの先端を擦り♡♡唇は根元を包み、し  
ごいて♡♡

ちゅ〜〜〜ッ♡♡♡ ちゅむちゅむちゅむちゅむっ  
♡♡ れられられられられっ♡♡♡♡

乳首は搾られたかと思えば細かに圧をかけてくる♡♡  
♡♡

「……ほ♡♡ お♡ 効い、てます……っ♡♡♡♡ きもち、  
です……♡♡♡♡♡」

「それは良かった、ではもう少し……」

私の言葉に返事をしたのは店長だった♡♡

店長は次に両手を使って左右へクリ皮を広げ♡♡♡♡

ぢゅぶッッ！♡♡♡♡

唇で潰すようにクリトリスを含むと♡

吸い上げ伸ばし、

っっぽん！♡♡♡

と音を立てて解放した♡♡♡♡♡♡

ぢゅぶツツ！♡♡♡♡

「ほッっ♡♡お♡♡♡」

潰されて♡♡ 吸われて、敏感すぎる薄い皮膚を伸ばされて、

っっぽん！♡♡♡♡

ぢゅぶツツ！♡♡♡♡

「お” ……！！♡♡♡♡」

解放されるとそのジンジンとした痺れがおさまる前に  
また潰される♡♡♡♡

ぢゅぶツツ！♡♡♡ っっぽん！♡♡♡ぢゅぶツツ！

♡♡♡ っっぽん！♡♡♡ぢゅぶツツ！♡♡♡

「お、お” っ♡♡ おっ♡♡ お、お” ツ♡♡♡」

ぢゅぶツツ！♡♡♡ っっぽん！♡♡♡ぢゅぶツツ！

♡♡♡ っっぽん！♡♡♡ぢゅぶツツ！♡♡♡ っっぽん

！♡♡♡ぢゅぶ…ツツ！♡♡♡

……ぢゅぶぶツツ！♡♡♡ ぢゅぶぶツツ！♡♡♡ ぢゅぶぶツツ！♡♡♡ ぢゅぶぶツツ！♡♡♡ ぢゅぶぶツツ！♡♡♡ ぢゅぶぶツツ！♡♡♡ ぢゅぶぶツツ！♡♡♡ ぢゅぶぶツツ！♡♡♡ ぢゅぶぶツツ！♡♡♡ ぢゅぶぶツツ！♡♡♡

「お” んッ、♡♡♡ おお” ……ツツツツ♡♡♡♡ す、  
ご……♡♡ これえ♡♡♡♡ いい♡♡ お♡♡ おおお♡♡♡

今度はローターみたいに細かに震わせてくる♡♡

伸ばされて熱くなったそこを激しく揺らされる♡♡♡



「お客様、おまんこ汁すごいことになってますよ」

「店長のクンニそんなに気持ちいいですか？」

「……こっちも負けてられないな、お客様、乳首もしっかり意識してくださいね」

新人の一人が乳輪を広げるように指で押さえると♡♡

強調された乳首の付け根をえぐるように舌を絡めた♡



それはそのまま勃起に巻きついてきて、

ぢゅろおっ♡♡♡ ぢゅろお、ぢゅろおッ♡♡♡

何度も幹を往復し♡♡

もう一人も負けじと乳輪ごとしゃぶりつく

ずっ、ぼぼぼぼっ♡♡♡♡

下品な音を立てて強く吸い上げ、

ずりっ♡♡ ずりっ♡♡ ずりっ♡♡ ずりっ♡♡

口内で乳首の先端を舌で擦ってくる♡♡♡♡

「お” お” お” ♡♡♡ おっ、ン” おお……ツツ♡♡♡

♡♡ お……ツ！♡♡♡♡♡」

(これ、やばい、また……)

体の中に溜まっていく快感♡♡♡♡

お腹の下に力が入って、手はまたベッドの端を握り込み、足の指がピンと広がる♡♡♡♡♡

ぢゅぶぶッッ！♡♡♡ ぢゅぶぶッッ！♡♡♡ ぢゅぶぶッッ！♡♡♡ ぢゅぶぶッッ！♡♡♡ ぢゅぶぶッッ！♡♡♡ ぢゅぶぶッッ！♡♡♡

ぢゅろおッ！♡♡ ぢゅろお、ぢゅろおッ！♡♡♡ ぢゅっぷ、ぢゅぶっ、ぢゅ、ろおっ♡♡♡ ぢゅろお…！♡♡♡

ずぼッ♡♡ ずりずりずりずりっ♡♡♡♡ ずぼぼッ♡♡ ずりずりずりッ！！♡♡♡♡♡

「ッ” ッ” ♡♡♡ あ” ～～～～っ♡♡♡♡♡ だめ、キてる♡♡ きもちいいのキてるからああ……！！♡♡♡♡♡ お” ♡♡♡ お……！！♡♡♡♡♡」

「顔もすっかりとろけてきましたね、お客様」  
「ずーっとおまんこがパクパクしてますよ、乳首もクリトリスも一緒にしゃぶられてイっちゃいましょう」

ぢゅぶぶッッ！♡♡♡ ぢゅぶぶッッ！♡♡♡ ぢゅぶ

ぶッッ！♡♡♡ ぢゅぶぶッッ！♡♡♡ ぢゅぶぶッッ！  
♡♡♡ ぢゅぶぶッッ！♡♡♡

ぢゅろおッ！♡♡ ぢゅろおッ！♡♡ ぢゅぶぶ、ぢゅ  
ぶぶ、ぢゅぶぶッッ！！♡♡♡♡

ずぼッ♡♡ ずりずりずりずりっ♡♡♡♡ ずぼぼッッ  
♡♡ ずりずりずりッッ！！♡♡♡♡♡

店長の顔が私のクリトリスめがけて上下し、新人二人  
は私の乳首に覆い被さっている♡♡♡♡

「はア`、あ` ……っ♡♡ だめっ♡♡♡ イくイく、  
……ふ、ツツッう` ♡♡♡♡ イ` く……！！♡♡♡  
♡」

ぢゅぶぶッッ！♡♡♡ ぢゅぶぶッッ！♡♡♡ ぢゅぶ  
ぶッッ！♡♡♡ ぢゅぶぶッッ！♡♡♡ ぢゅぶぶッッ！  
♡♡♡ ぢゅぶぶッッ！♡♡♡

ぢゅろおッ！♡♡ ぢゅろお、ぢゅろおッ！♡♡♡ ぢ  
ゅっぷ、ぢゅぶっ、ぢゅ、ろおっ♡♡♡ ぢゅッッぷ！  
♡♡♡

ずぼッ♡♡ ずりずりずりずりっ♡♡♡♡ ずぼぼッッ  
♡♡ ずりずりずりッッ！！♡♡♡♡♡

クリトリスも乳首も、今まで感じたことのないくらい



敏感に育ってしまった♡♡♡

私はクリトリスを店長に差し出すように腰を浮かせる

♡♡♡♡

踏ん張った足から体の中心へ力が伝わって♡♡♡♡♡

「イ`、く` …………！！！！♡♡♡♡♡♡ ほ、お` …  
……………~~~~~！！！！♡♡♡♡♡♡♡♡♡♡」

またイった♡♡♡♡

一瞬視界が真っ白になって、体がベッドへ落ちた……

♡♡♡♡

店長はクリトリスから口を離さない♡♡

イキ痙攣しているであろうそこをあやすように唇でや  
わやわと揉み込んでいる♡♡

そんなことされるとずーっと体が気持ちいいはまだ♡

♡♡♡

イったばかりの一番敏感なところからじわじわとまた  
気持ちいい感覚が体へ広がってしまう♡♡

「っ♡♡ も♡♡ ……ら、め♡♡ きもちよくしないで  
……♡♡♡ ん♡♡♡ んぁ…♡♡♡」

っ、ちゅぽ……♡♡

もったいつけてクリトリスから離れた店長の唇♡♡  
それと同時に何かが私のおまんこの割れ目を撫でた♡  
♡♡

店長の指だ♡♡

店長の指が二本、愛液を広げるように動き、ほぐしながら入ってくる♡♡♡♡

「あ……、うあ♡♡」

何度もイカされてから体の内側を触られるのは、今までに味わったことのない感触だった♡♡♡♡

ただなぞられているだけ♡ おまんこの上側、ざらついたところを指の腹で撫でられているだけなのに♡♡♡

満たされた感じがして下半身がとろけそうになる♡♡  
♡♡♡

「見ていてください、お客様の反応を伺いながら優しく  
…。こうすると入り口からクリトリスまでヒクついてい

るでしょう」

私が勝手に身悶えて、店長は新人たちに冷静な声で説明している♡♡♡♡

ぐちゅ♡♡ ちゅ♡♡ ぐちゅ♡♡

「あ♡♡ お♡ おっ♡♡」

その指はだんだんと前後するようになった♡♡♡

ちゅ♡♡ ぐちゅっ♡♡ ぐちゅっ♡♡

「……っ♡♡ ツ” お♡♡♡ お♡♡♡」

指の腹が絶妙な圧をかけ、そこを往復して擦る♡♡♡

ぐちゅっ♡♡ ちゅっ♡♡ ちゅっ♡♡

「……～♡♡ っ♡♡ ツ♡♡♡」

とろけた下半身がその気持ちよさに目を覚まし、引き攣っていく♡♡♡

ぐちゅッ♡♡♡ ぐちゅッ♡♡♡ ぐちゅッ♡♡♡

「お” ♡♡♡ おッ” ♡♡♡ おッ♡♡♡」

更に指は早くなってなって♡♡

ぐちゅッ！♡♡♡ ぐちゅッ！♡♡♡ ぐちゅッ！♡♡

♡

「ふお♡♡♡ おおッ” ♡♡ ン” オ” …っ！♡♡♡」

「腰、動いてないですか？」

「ちんぽ欲しがってるんですね」

「そうです、立派なチン媚びまんこに仕上がりましたね。ここまでお客様の欲望を解放できれば充分でしょう。このままイかせてあげれば、大きな絶頂を味わうことができます」

——ぐちゅちゅちゅちゅちゅちゅちゅちゅちゅちゅちゅちゅちゅ  
ちゅツツツ！！♡♡♡♡♡♡

ぐちゅちゅちゅちゅちゅちゅちゅちゅちゅちゅちゅちゅ  
ゆッッッ！！♡♡♡♡♡♡

突然指が激しく動き始めた♡♡

そのピストンと同時に親指がクリトリスを押し潰す♡

「ほッッおおおおおッッッッ！！♡♡♡♡♡♡♡♡」

足がピンと強張った♡♡♡♡

大きな快感が体を包んで一気に熱が上がり、汗が噴き出る♡♡♡♡

ぐちゅちゅちゅちゅちゅちゅちゅちゅちゅちゅちゅちゅちゅちゅ  
ゆッッッ！！♡♡♡♡♡♡

ぐちゅちゅちゅちゅちゅちゅちゅちゅちゅちゅちゅちゅちゅちゅ  
ゆッッッ！！♡♡♡♡♡♡

「お” ツツ！♡♡ んおおおおお！！♡♡♡ ま”、てえ  
 ” …！！♡♡♡♡ そんな、イ” くっ、イ” く……！！  
 ♡♡♡♡♡」

乳首やクリトリスへの直接的な刺激とは違う、中から体ごと全部溶かされるような、容赦ない快感だ♡♡♡♡♡

ぐちゅちゅちゅちゅちゅちゅちゅちゅちゅちゅちゅちゅちゅちゅちゅちゅ  
ゅツツツ！！♡♡♡♡♡♡

ぐちゅちゅちゅちゅちゅちゅちゅちゅちゅちゅちゅちゅちゅちゅちゅちゅ  
ゆッッッ！！♡♡♡♡♡♡

「イ、く………！！♡♡♡♡♡ お” ツ” ツ”、お”  
 おおおおおおおおおツ” ツ” ツ” ！！！！♡♡♡♡♡♡♡♡  
 ♡」

体が自分で制御できない♡♡

お腹を沈ませ痙攣した上半身が浮く♡♡♡♡

その瞬間、見えてしまった♡♡♡♡

周りにいる新人たちのちんぽが膨らんでいるのを♡♡  
♡♡♡

制服の股間がパンパンに張っている♡♡♡♡♡

「では、この手マンを順番に実践していきましょうか」

店長は周りの新人たちを見回してとんでもないことを  
言い出した♡

これから順番に新人の指でおまんこの中をピストンさ  
れ続けるなんて私にはもう耐えられない♡♡♡♡

「あ、あの……、おねがいします♡♡♡♡♡♡」

遮るように、

私はガニ股になって腰を上げた♡♡♡♡♡

もう恥ずかしさなんてなかった♡♡♡

それよりも、何度イっても疼き続けるこの体をどうに  
かしてほしくて♡♡♡♡♡

「……お客様、どうされたんですか？」

「お……、おちんぽ♡♡ おちんぽください……♡♡♡

♡ もう指はいいから……♡♡♡♡♡」

ベッドの周りにいる男性たちの視線が一斉に私のおまんこに集まった♡♡

それにすら興奮してしまう♡♡♡♡

「もう我慢できないんです♡♡♡♡ おまんこの中、おちんぽでマッサージしてください♡♡♡♡」

へこっ♡♡♡ へこっ♡♡♡ へこっ♡♡♡ へこっ♡♡♡  
♡

必死に上下に腰を振った♡♡

ピストンを連想させるような一定のテンポで♡♡♡♡

新人たちは店長の目を見て、次を伺っているようだ♡  
♡

「……本来は駄目なのですが。本当のお客様じゃないですしね。ここまで気持ちよくなってくれたんですから、最後まで面倒みましょうか」

店長のその言葉に、興奮した新人たちのちんぽがぼろん♡♡と溢れ出た♡♡♡♡

そのどれもが怒張して、ビクビクと血管を鳴らし、私のおまんこを狙っている♡♡♡♡

「…………♡♡♡♡♡♡♡♡♡」

私はへこつかせていた腰を下ろし、足を大きくM字に開いた♡♡♡♡♡

——パンパンパンパンパンパンパンパンパンパンパンッ  
ッッ！！♡♡♡♡♡♡

「お” っ♡♡ お” ツお” ツお” ツ！♡♡♡ それ、それいい……！♡♡♡♡♡ ン” あ” っ、あああ！！♡♡♡」

「ここまで勃起したクリトリスであれば、……こう、小さく動かすだけでもかなり感じるはずです」

「て、店長、お客様のおまんこがすごく締まってます……！」

「……ッ” ♡♡ お” …ほお” ツ！♡♡ お” ♡♡♡ おお” ……！！♡♡♡♡♡」

「みんな見てください、外からでもしっかり収縮しているのが分かりますよ」



「本当だ、こんなにぎゅうぎゅう締めて…ちんぽめちゃくちゃ気持ちよさそう……」

私は新人の腰に足を絡めながら奥にちんぽをぶつけられている♡♡

両側には別の新人がそれぞれ立ち、施術着を剥かれた私の生の乳首をしゃぶって♡♡

足の間でパンパンに腫れたクリトリスは店長の指先でくるくる♡と撫でられていた♡♡♡♡

パンパンパンパンパンパンパンパンパンパンパンッ  
ッ！！♡♡♡♡♡♡

衰えない勢いでひたすらに力任せに突き込んでくるちんぽ♡♡♡♡

ぢゅぽッ♡♡ぢゅぷぷぷッ♡♡♡ ちゅッッぽちゅ  
ッッぽちゅッッぽ♡♡♡♡ じゅるるる……ッ♡♡  
♡♡♡

布を隔てない生の乳首は口内の粘膜にぴったりと吸われ♡♡

くりゅくりゅくりゅくりゅっ♡♡ くりゅりゅりゅり  
ゅりゅりゅ……っ♡♡♡♡

腫れた、だけど小さいクリトリスの表面を指先が擦って、たまに爪を引っ掛けられる♡♡♡♡

パンパンパンパンパンパンパンパンパンパンパンッ  
ッ！！！！♡♡♡♡♡♡

ぢゅぷぷッッ！！♡♡♡ ぢゅぽッ、ぢゅッッぽ！！♡♡  
♡ ぢゅぷぷぷぷッッ！！♡♡♡♡ ぢゅるッぢゅるッぢゅ  
るッ！！♡♡♡♡

くりゅりゅりゅりゅりゅりゅりゅッ♡♡♡♡ くりゅり  
ゅりゅりゅりゅりゅりゅッ♡♡♡♡

「あゝ、あゝ ～～～～～♡♡♡♡♡♡♡ きも”  
ちいい” よお” ♡♡♡♡♡ ちんぽでイクッ” ♡♡♡ ち  
んぽでおまんこ突かれてイク” ……！！♡♡♡♡♡ ャ  
ッッお” おおおお” お” お” ……！！♡♡♡♡♡♡♡」

絶頂に反らした喉から、頭が後ろへガクンと落ちた♡  
♡♡♡♡♡

ちんぽはまだ射精していない♡

新人は私の腰を抱え直し、自らのちんぽを追い立てる  
ような猛スピードのピストンを始めた♡♡♡

ドチュドチュドチュドチュドチュドチュドチュドチュ  
ドチュッッッッ！！！！♡♡♡♡♡♡♡♡

「……………ッ” ャ” ャ” ャ” ♡♡♡♡♡♡」

「クリトリス、次はこうしてみましようか」

店長の言葉は私への言葉ではない♡

周りで新人たちが店長の手元を覗き込んでいる♡♡♡

クリトリスの上下に沿わされる指♡♡

その指が、まるでちんぽをしごくようにクリトリスの  
付け根から先端へ、上下に動かされた♡♡♡♡

ちゅこ♡♡ ちゅこちゅこっ♡♡ ちゅこちゅこっ♡♡

ちゅこちゅこっ♡♡

「ふ……お” !♡♡♡ お、ほおっ♡♡ ツッ!!♡♡  
♡」

「男のちんぽと一緒に、しごきつつ、ときどき先端を集  
中の的に…」

くりゅりゅりゅりゅりゅりゅりゅッ♡♡♡

「ん” う———……………!!!♡♡♡♡♡」

「でもイかせたいときは……、こう、ペースを一定にし  
て」

ちゅこッちゅこッちゅこッちゅこッちゅこッちゅこッ  
ちゅこッちゅこッちゅこッ!!!♡♡♡♡♡♡♡

「ほオ” ~~~~~……………ツツツッ!!!♡♡♡♡♡♡♡  
♡」

■続きは製品版にて♡